



2020年11月12日

各 位

会 社 名 東邦チタニウム株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 西 山 佳 宏
コ ー ド 番 号 5 7 2 7 (東証第一部)
問 合 せ 先 経営企画部企画グループ
グループマネージャー 留 場 啓
(TEL. 045-394-5521)

2020—2022 年度 中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、新型コロナウイルスの影響により、想定していた事業環境が大きく変化していることから、2020年5月21日に中長期基本方針のみ公表しましたが、このたび、主要課題と施策及び具体的数値を織り込んだ2020—2022年度 中期経営計画を策定しましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上

東邦チタニウム株式会社

2020-2022年度 中期経営計画

2020年11月12日

Outline

1. 2017-2019年度 中期経営計画の振り返り

2. 2020-2022年度 中期経営計画

- 2-1. 事業環境認識
- 2-2. 中長期基本方針と基本戦略
- 2-3. 基本戦略と主な施策
- 2-4. 基本戦略と数値目標
- 2-5. セグメント別主要課題と施策
- 2-6. 財務計画・設備投資計画
- 2-7. ESG経営の推進

3. 2022年度試算値

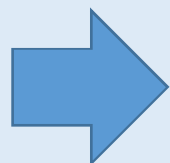
1. 2017-2019年度 中期経営計画の振り返り

1. 前期中計 振り返り - 金属チタン事業 -

金属チタン事業

- 強靱な黒字体質の構築 -

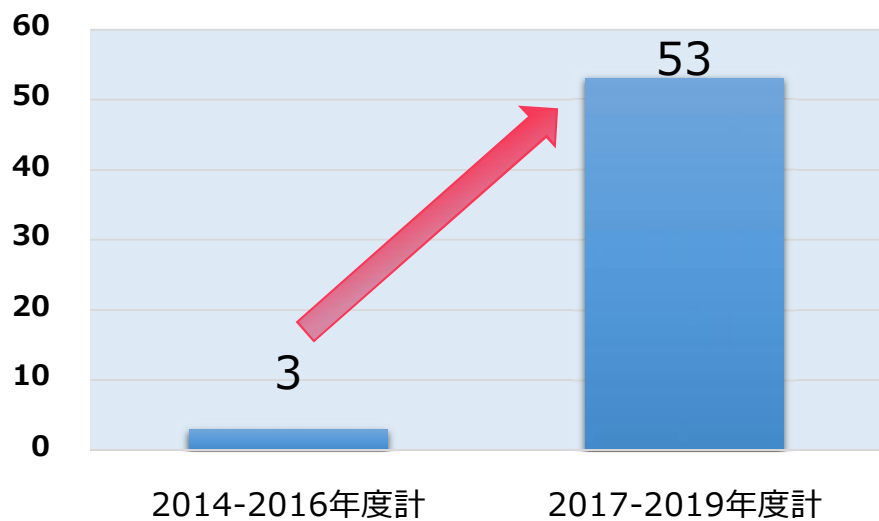
- 拡販とコスト改善
- スポンジ最適生産体制
- 差別化戦略



- ✓ 2017-2019年度計 営業利益は53億円へ (50億円増 対2014-2016年度比)
- ✓ 2019年 9月サウジ工場稼働
- ✓ 2019年度高純度チタン販売量は2016年度比約1.4倍へ

営業利益の拡大

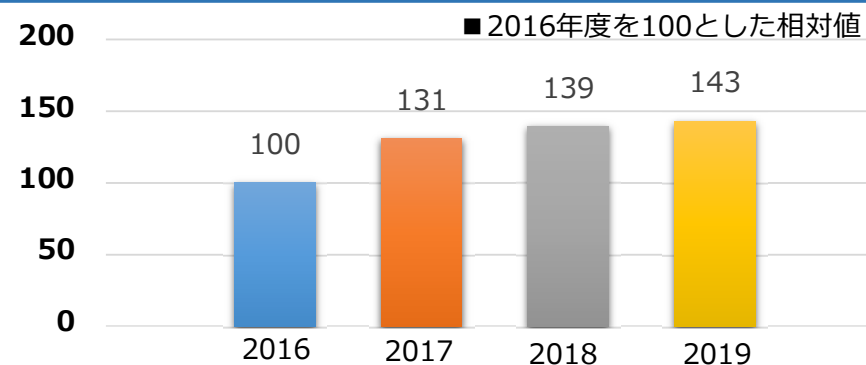
(単位：億円)



サウジ工場稼働



高純度チタン販売量の推移



1. 前期中計 振り返り -触媒事業-

触媒事業

-市場を上回る成長の実現-

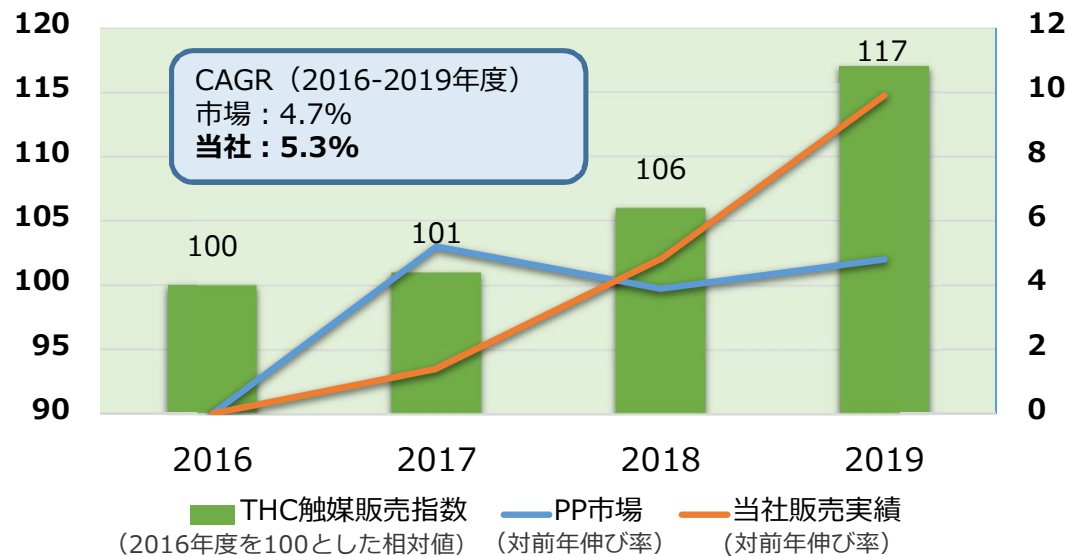
- 差別化戦略
- 拡販に向けた取り組み
- 生産体制拡充



- ✓ 環境対応型触媒の高活性化等
- ✓ 有力顧客等との連携強化
- ✓ 現有設備のボトルネック解消

THC触媒販売量の伸長

営業利益は堅調 (2014-2016年度 72億
2017-2019年度 79億) (単位: %)



触媒新工場の建設決定



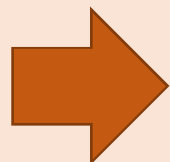
2022年11月茅ヶ崎工場で稼働予定

1. 前期中計 振り返り -化学品事業-

化学品事業

-市場を上回る成長の実現-

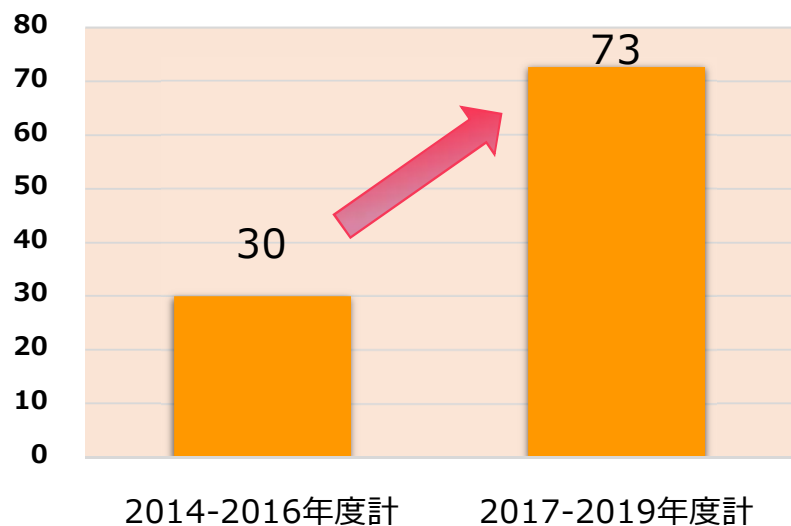
- 差別化戦略
- 拡販に向けた取り組み
- 生産体制拡充



- ✓ ニッケル粉小粒径化への対応等
- ✓ 有力顧客等との連携強化
- ✓ ニッケル粉新工場（第3工場）の早期立ち上げ

営業利益の拡大

(単位：億円)



ニッケル粉第3工場完工・第4工場建設中



2017年12月
ニッケル粉第3工場稼働(若松工場)



2021年4月
ニッケル粉第4工場稼働予定
(若松工場)



2. 2020-2022年度 中期経営計画

2-1 事業環境認識

金属チタン事業	<ul style="list-style-type: none">■ コロナ禍で航空旅客数が激減。航空機向けチタン需要は未曾有の落ち込みで回復には複数年を要する。■ 一般工業用も需要低迷が継続。■ 半導体市場向け高純度金属は引き続き好調を維持。
触媒事業	<ul style="list-style-type: none">■ 20年度のPP市場はマイナス成長。但し用途別には需要の好不調あり。当社触媒販売量に大きな影響なし。■ コロナ禍収束後は再び堅調な需要増を見込む。
化学品事業	<ul style="list-style-type: none">■ 足元は需要減少。21年1月からの需要回復を想定。コロナ禍が一段落した後の5G関連需要等の急速な高まりに備えた対応要。■ 21年度以降、MLCC等の部品需要は以前の成長軌道に回帰。

2-2 中長期基本方針と基本戦略

[中長期基本方針]

金属チタン事業に加え、チタンとその関連技術を中心とする複数のダウンストリーム事業を有する高収益素材メーカーを目指す

高収益素材メーカー

2030年
ありたい姿

- 収益源多様化
- 資本効率改善
- 強固な財務体質

2020-2022年度

社会構造の変化に基づく成長分野にフォーカスしつつ、**差別化できるハイエンド分野及びニッチ分野の事業を拡大・強化**する。

2017-2019
年度

第1次成長期

コロナ禍対応

収益基盤強化

第2次成長期

収穫期

コンプライアンス、安全・環境対策、労働環境改善、ESGへの対応

2-2 中長期基本方針と基本戦略

[中長期基本方針]

金属チタン事業に加え、チタンとその関連技術を
中核とする複数のダウンストリーム事業を有する
高収益素材メーカーを目指す

[中計の基本戦略]

1. 成長分野への重点投資による収益基盤の強化

2. サウジ合併会社(ATTM)の早期収益化

3. 本社移転と茅ヶ崎工場リニューアルプラン

4. 新規事業の創出・推進

2-3 基本戦略と主な施策

1.成長分野への重点投資による収益基盤の強化

ニッケル粉第4工場

21年4月
商業生産開始
若松工場 75億円

触媒新工場

22年11月
商業生産開始
茅ヶ崎工場 73億円

分析センター構想

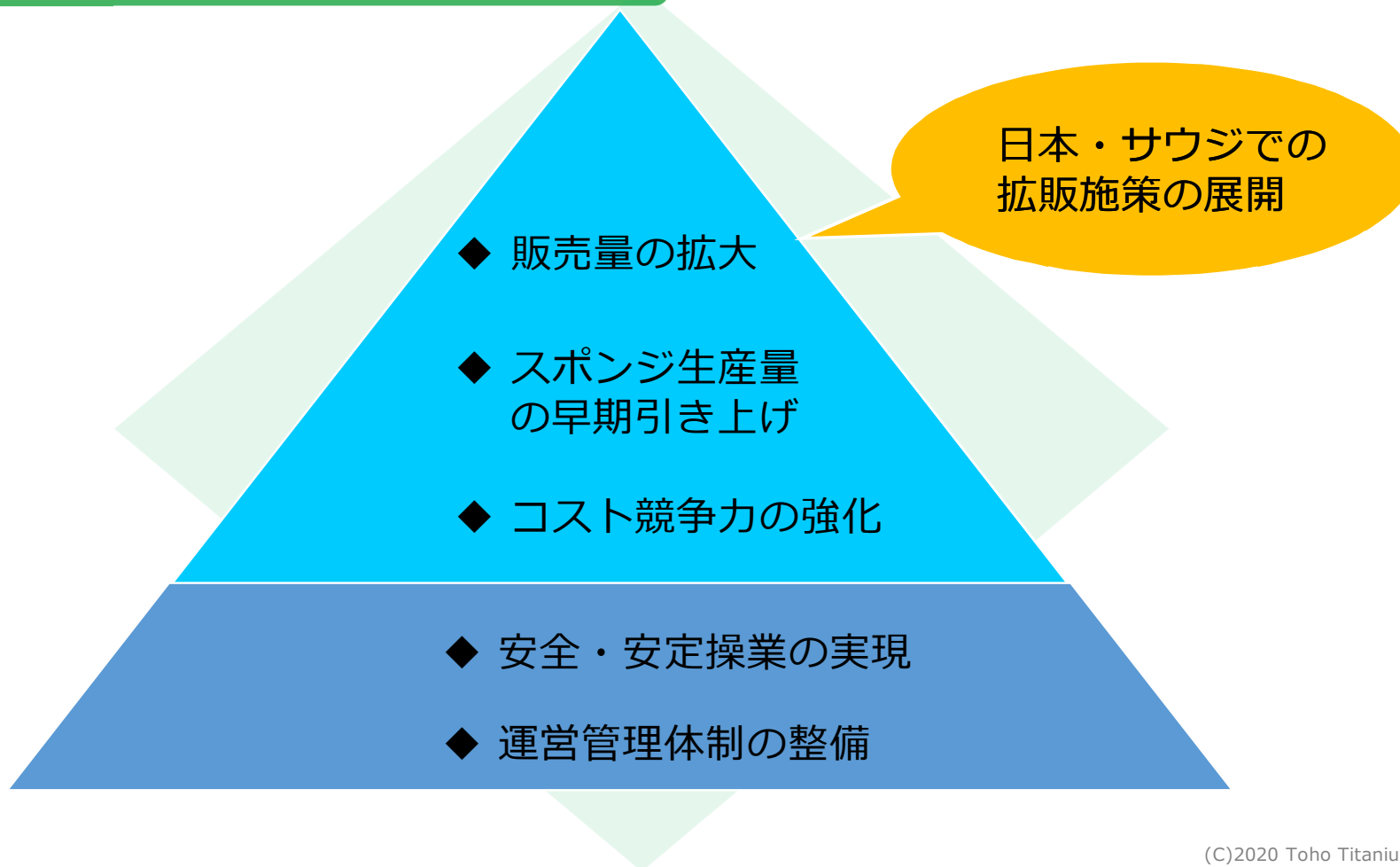
検討中

茅ヶ崎のEB炉

20年4月
商業生産開始
更なる増強計画を
検討中

2-3 基本戦略と主な施策

2.サウジ合弁会社(ATTM) の早期収益化



2-3 基本戦略と主な施策

3. 本社移転と茅ヶ崎工場リニューアルプラン

本社 移転

本社移転を契機に全社での
業務運営全般の見直し

営業力強化、業務効率化
(ICT活用等)

- 働き方改革等の推進
- ・地域限定
 - ・交替シフト
 - ・テレワーク拡充等

茅ヶ崎 工場

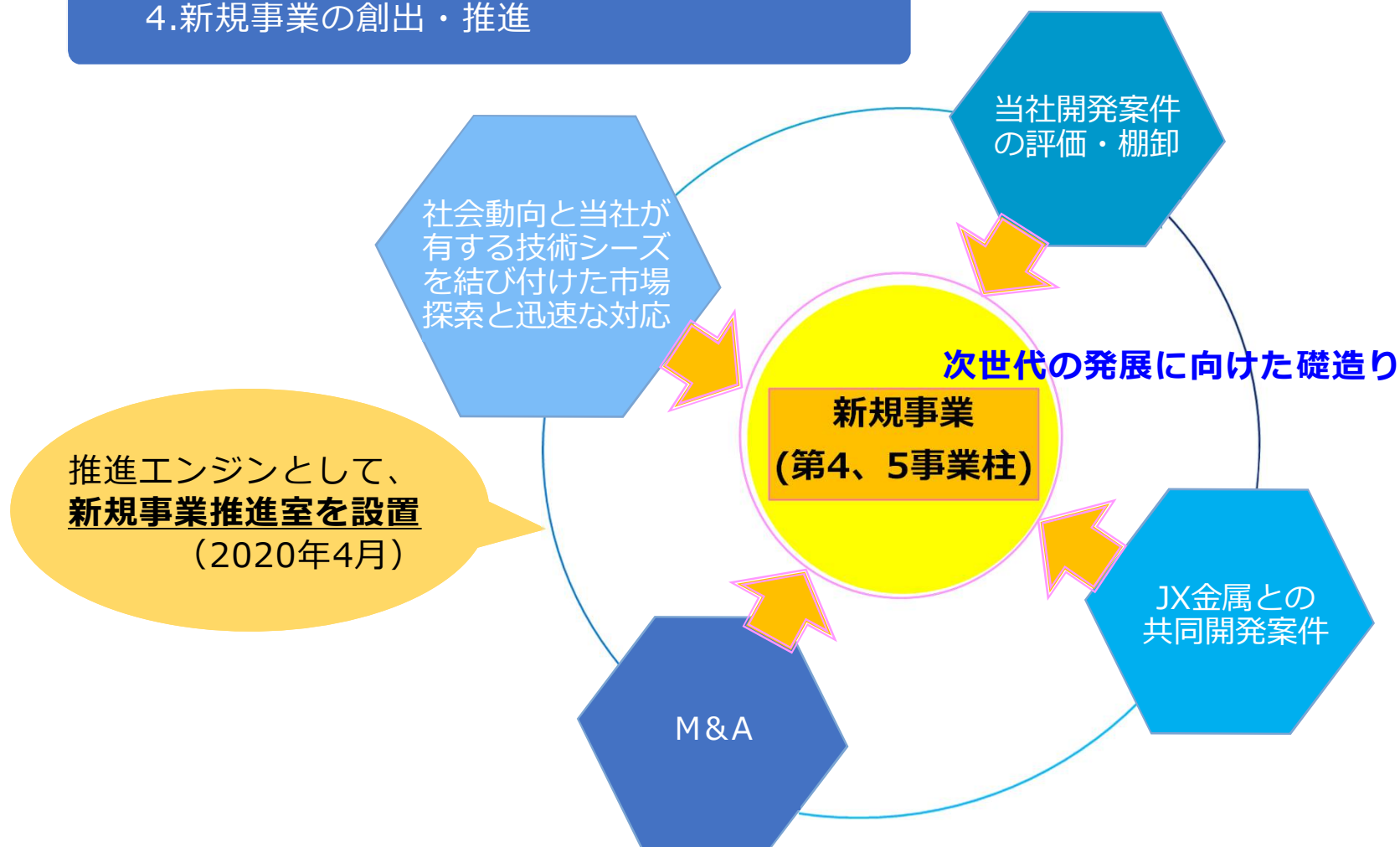
茅ヶ崎工場は安全・環境対策
の徹底、労働環境の改善

老朽化対策を
「茅ヶ崎工場リニューアルプラン」
として実施

- 歩車分離、道路の整備、
老朽設備・建屋修繕、
貯留槽の設置、暑熱対策、
展示スペースの整備等

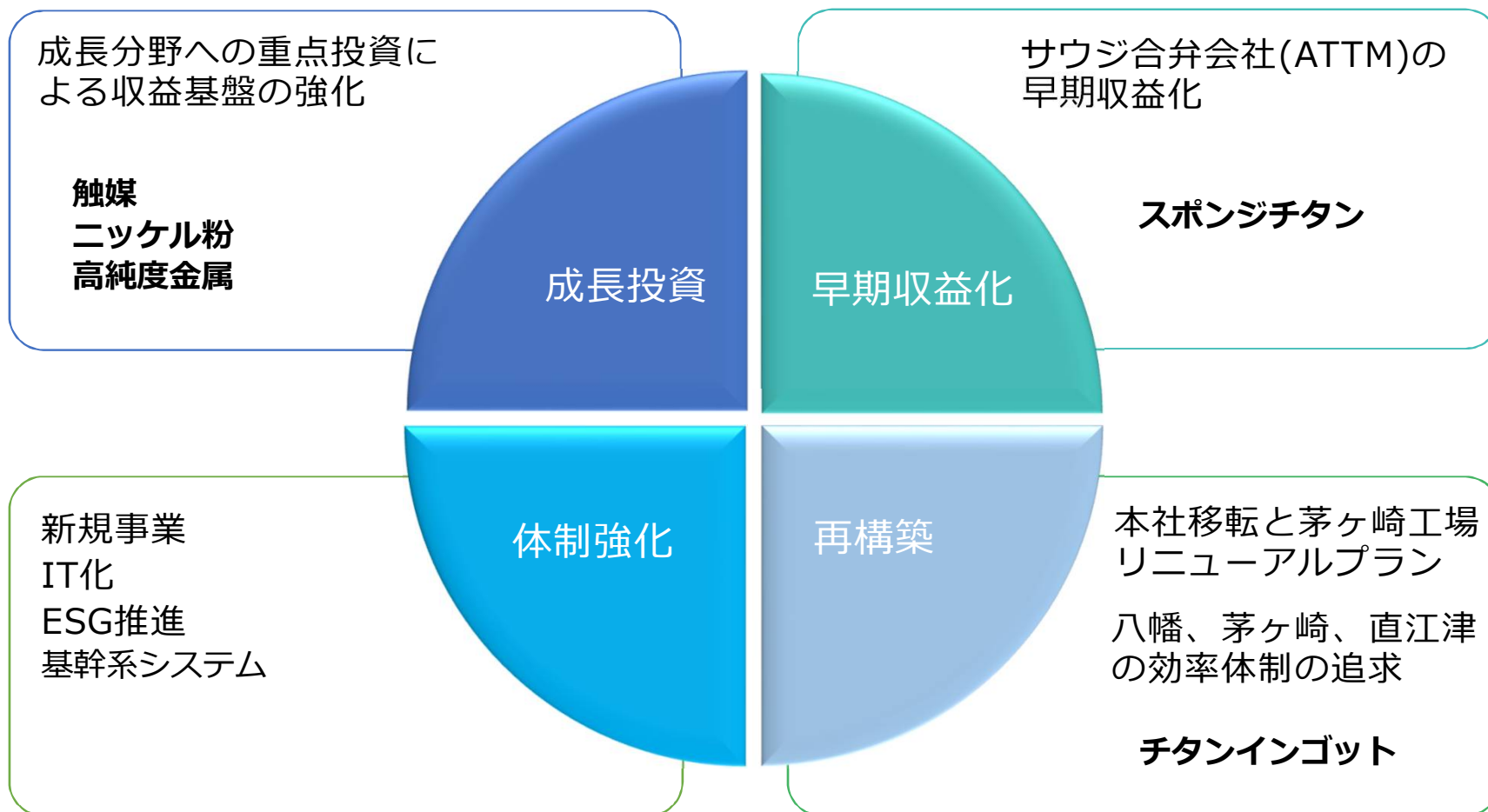
2-3 基本戦略と主な施策

4.新規事業の創出・推進



2-4 基本戦略と数値目標

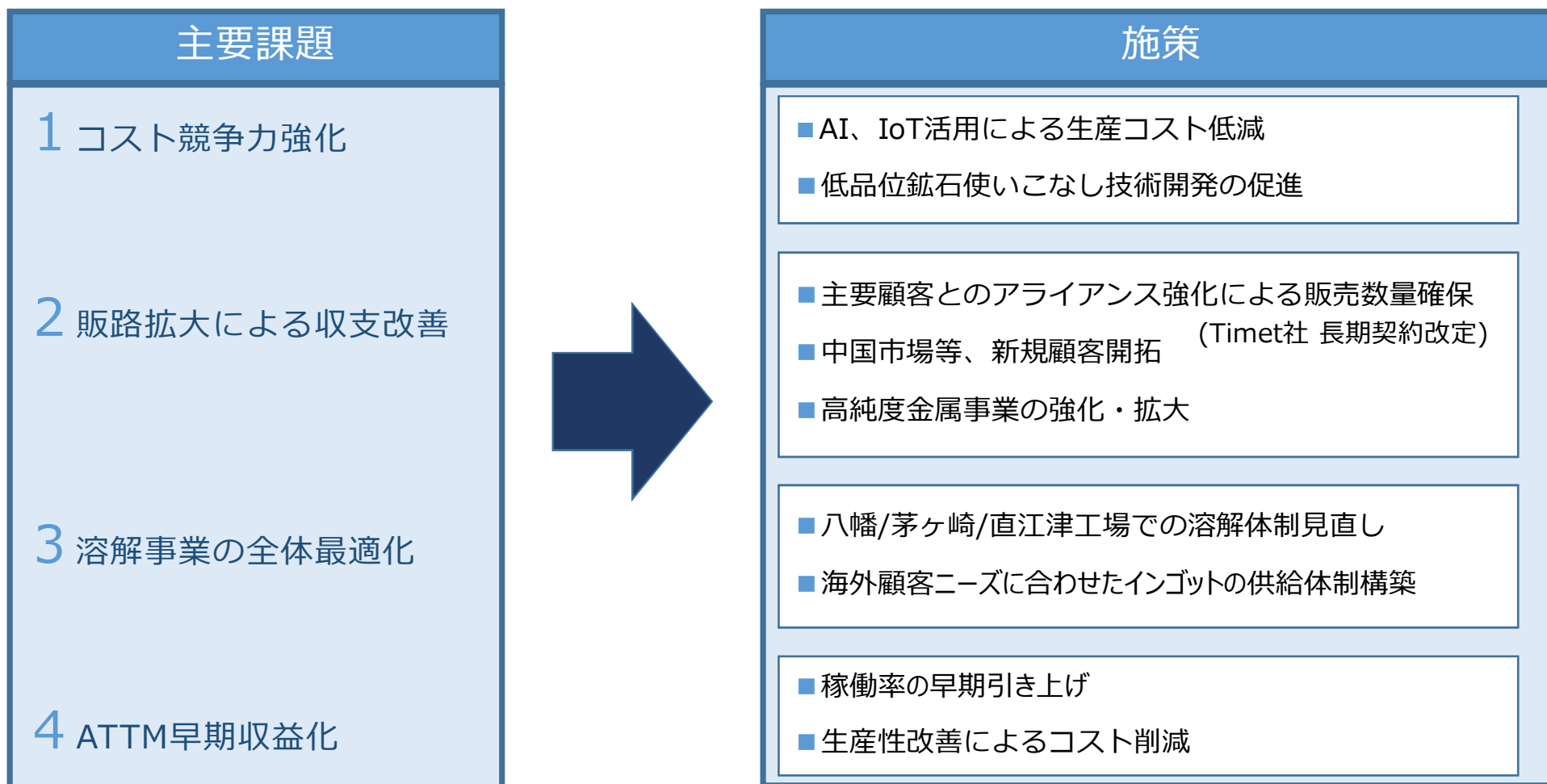
目標：2022年度にROE8%、長期的には10%



2-5 セグメント別主要課題と施策

金属チタン事業

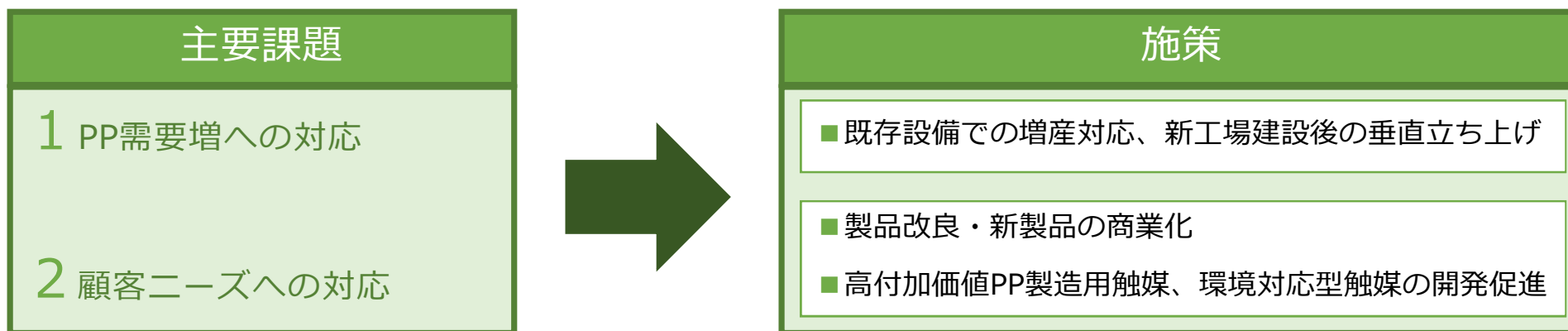
■ 中核課題：コロナ禍からの早期回復と収益力の抜本的改善



2-5 セグメント別主要課題と施策

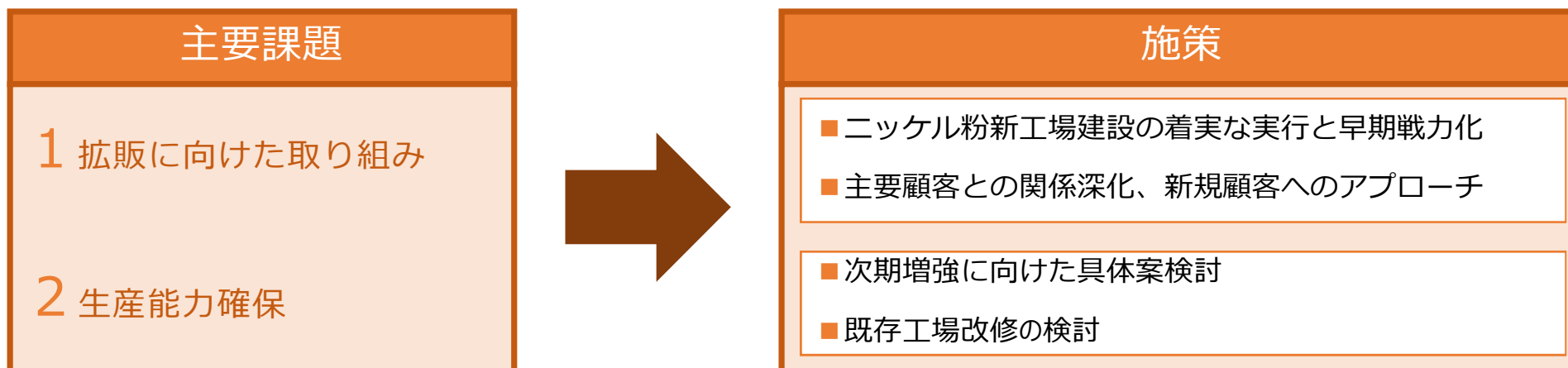
触媒事業

■ 中核課題：更なる事業拡大を追求し、市場の伸びを上回る成長



化学品事業

■ 中核課題：更なる事業拡大を追求し、市場の伸びを上回る成長



2-5 セグメント別主要課題と施策

新規事業・技術開発

主要課題

1 次世代の発展に向けた礎造り

2 技術力を背景としたさらなる
変革と創造の実践



施策

- 当社開発案件の評価・棚卸
- JX金属（株）との共同開発案件推進
- M&A、スタートアップ企業等への出資も検討

- 高度IT技術導入加速
- 衛生志向社会対応市場の捕捉（コロナ対応）



高意匠性多孔質チタン薄板
WEBTi®-F



可視光応答型光触媒酸化チタン

2-6 財務計画・設備投資計画

<財務戦略>

「成長投資」と「財務体質維持」の両立

健全な財務体質(自己資本比率 50%台)を維持しつつ財務レバレッジを活用し、成長分野への重点投資を確実に実施



中長期的なROEの向上

(単位：億円)

キャッシュフロー計画 (3ヶ年累計)

営業CF(当期純利益+償却費 他)	250
投資CF(設備投資 等)	△280
財務CF(有利子負債調達・配当 等)	30

<収支計画・財務指標>

(単位：億円)

	2019年度 実績	2020年度 見通し	2022年度 試算値
売上高	455	352	580
経常利益	37	3	60
当期純利益	24	△4	40
ROE	5%	△1%	8%
自己資本 比率	55%	49%	52%

(参考)

D/E レシオ	0.6	0.9	0.7
---------	-----	-----	-----

2-6 財務計画・設備投資計画

2017-2019年度 合計
(支出ベース)

[実績]



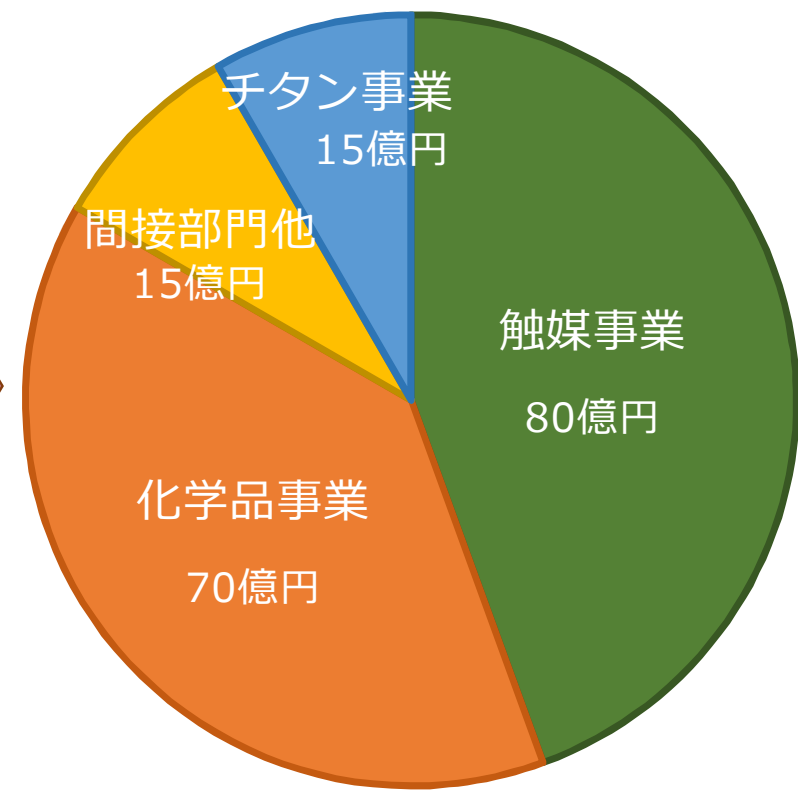
2020-2022年度 合計
(支出ベース)

[計画]

280億円













成長投資の内訳



2-7 ESG経営の推進

持続的な企業価値向上を実現するため、本中計期間から全社的視点でのESGに対する取り組みを強化し、SDGs達成に貢献してまいります。

	主な取り組み	主に関連するSDGs
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 脱炭素化に向けた取り組み強化 ◆ 廃棄物の削減、リサイクルの推進 ◆ 環境に配慮した製品の提供拡大 	  
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ダイバーシティの推進（女性活躍等） ◆ 多様な働き方の推進 	 
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 組織としての意思決定の仕組み強化 ◆ コンプライアンスの徹底、企業倫理と法令遵守 	 

3. 2022年度試算値

3.2022年度試算値

(単位：億円)

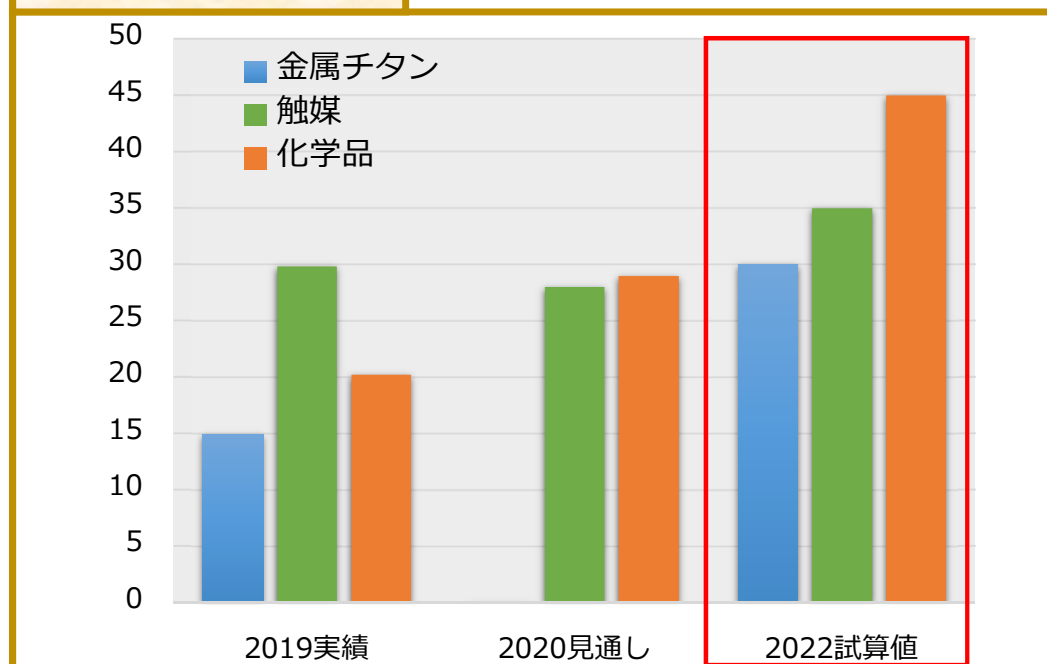
	2019年度 実績	2020年度 見通し	2022年度 試算値
為替レート (円/\$)	109	105	105
売上高	455	352	580
金属チタン事業	292	170	330
触媒事業	75	73	90
化学品事業	88	109	160
営業利益	41	27	65
金属チタン事業	15	0	30
触媒事業	30	28	35
化学品事業	20	29	45
全社費用	△24	△30	△45
経常利益	37	3	60

2022年度試算値 売上・利益増加要因

- ◆ 金属チタン
 - ・主要顧客との長期売買契約改定に伴う販売数量増
 - ・高純度金属事業の強化・拡大
- ◆ 触媒
 - 2022年11月新工場稼働
- ◆ 化学品
 - 2021年4月ニッケル粉第4工場稼働

セグメント別営業利益

(単位：億円)



経営理念

東邦チタニウムグループは
チタンと関連技術の限りない可能性を追求し
優れた製品とサービスを提供し続けることで
持続可能な社会の発展に貢献します

行動基本方針

私たちは、経営理念を実現するため次の3つの基本方針に基づき行動します。

1. 安全とコンプライアンスを最優先し、健全で公正な企業活動を行います。
2. 変革と創造を実践し、従業員と企業の持続的成長を果たします。
3. 顧客、地域社会、株主をはじめとする全てのステークホルダーと対話を進め、信頼・共生関係を築きます。

将来の見通しに関する注意事項

本資料の中には、当社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、当社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは大きく異なってしまう可能性があります。当社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。
また、要因はこれらに限定されるわけではありません。

- ・ 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
- ・ 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
- ・ 為替相場の変動 など

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。したがって投資に関する決定は本資料のみに依拠してされるのではなく、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。